

# 英 語 科

蒔 田 守  
肥 沼 則 明  
久保野 り え  
植 野 伸 子

英語科

# 新学習指導要領に対応した授業作りの工夫

## 1. はじめに

本校英語科では、平成8年度より「3年間を見通した英語指導～『聞くこと』『話すこと』を中心として」を研究テーマに掲げ、4年間をかけて中学校3年間での一貫した望ましい英語指導のあり方を探った。具体的には、初年度に「育てたい生徒像」を①「生きたことば」でコミュニケーションができる生徒、②困難に対して臨機応変に粘り強く取り組める生徒、と定め、以降の3年間で「聞くこと」「話すこと」を中心とした創造的な言語活動の3年間の指導計画を完成させた。また、平成12年度からは「『自立した学習者』を育てるカリキュラム作り」をテーマに掲げ、4年間をかけて授業時間削減に対応した総合的な英語学習指導のあり方を研究した。具体的には、最初の3年間で「自立した学習者」を育てるための4つの要素（①授業、②家庭学習、③授業外での良質なinput、④英語を使った独自の楽しみ）をあたかも四輪駆動車のように相補関係を持たせて指導することの重要性和その具体的指導内容を提案し、最終年度には生徒の学習を阻害する要因に着目して、3年間を通した学習を継続する手だてについて考察した。

一方、平成10年12月に文部省より告示された小学校学習指導要領に総合的な学習の時間が新設され、その学習内容の1つの柱として「国際理解」が示されたことから、実験校を中心にして全国的に英語（英会話）の授業が行われるようになり、現在ではほとんどの小学校で何らかの形で英語の授業が行われている。この傾向は、平成20年3月に文部科学省より告示された新小学校学習指導要領において、第5学年及び第6学年に「外国語活動」という領域が教科と同列に新設されたことによって、ますます加速されるものと思われる。このような社会の流れに対して、本校英語科では平成16年度から3年間をかけて「入門期指導を改めて考察する」というテーマで研究を進め、入門期指導のあり方と具体的な指導内容の提案を行った。さらに、平成19年度には「小学校で培われた力を活かし、高校につなげる中学校3年間の指導～小中高一貫カリキュラムの作成過程で見えてきたこと～」をテーマに掲げ、小学校と高校における英語学習との連携を意識した中学校の英語学習指導のあり方を議論した。

## 2. 本年度研究テーマ設定の理由

平成20年3月に文部科学省より告示された新中学校学習指導要領によれば、平成24年度より完全実施される教育課程では、英語学習指導において現行のそれとは大きく異なる点が何点かある。第一に目を引くのは授業時数の増加（週3時間→週4時間）である。これは昭和52年に告示された学習指導要領で授業時数が削減される以前の状態に戻ったことを意味する。また、それに伴って指導すべき言語活動や言語材料の内容も増えている。次の大きな変更は目標である。新版では「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」となっているが、これは現行版に対して4技能をバランスよく総合的に授業の中で扱いながら、各技能に関連を持たせた統合的な活動を行っていくことを求めている。その他、内容面においては「正しく」あるいは「正

確に」という文言が加えられた部分が多い。これは「通じればよい」というレベルのあいまいな理解及び表現にとどまることなく、より正確な理解力と表現力を身につけることを求めているものと考えられる。そしてそれは、新たに導入される小学校の外国語活動の目標が「…、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」ことであることを受け、小学校で学んだ内容をより着実な知識や技能として定着させることをねらったものであろう。

「1.はじめに」で述べた本校英語科が目指す「育てたい生徒像」や「自立した学習者」の研究で得られた成果は、今回の学習指導要領の告示によってその方向性を早急に変えなければならぬということはない。それは、本校英語科が目指す「育てたい生徒像」や「自立した学習者」が、こうした新指導要領が示す内容を具体化する上でも依然として土台となるものだからである。しかし、上記の変更に対応した指導内容や、やがて迎え入れるであろう小学校の「外国語活動」経験者に対応した指導のあり方を考える必要性はある。そこで、本年度は小学校及び中学校の新学習指導要領に対応した授業作りのあり方を検討することにした。さらに、本校では数年前より1年生は週4時間、2・3年生は週3.5時間授業を行い、4技能の総合的な育成を図ってきたが、その中でどのように4技能を総合的に育成してきたのかをここで改めてまとめてみることにした。そして、それらの議論をとおして、来るべき週4時間体制の中でどのような学習指導を行っていくべきかを提案したい。

### 3. 中学1年生に対する4技能の総合的育成

授業数が増え、「読む力・書く力の育成も」とは言っても、読み書きの育成の前に「聞くこと、話すこと」の指導を先行させることは、言うまでもない。ことばの学習としては、聞いてわかることを読み、言えることを書くのが鉄則である。学習が進むと、音声を介さずに読んだり書いたりする形態は現れるが、それとて根底には音声の流れがあり、この鉄則からはずれるものではない。本校では、4, 5月の期間は入門期として、教科書は使用せず、耳と口を活用することに重きをおいている。ただ、この期間に「読むこと」や「書くこと」を行わないかといえば、そうではない。週に4時間授業があるのであるから、そのすべてを使い、聞くこと話すことを中心に、文字を読むこと、書くことにも触れさせる。4時間あれば、前時の内容を忘れる前に次の授業ができる。先に述べたように、耳で聞いてわかる英語、口に出せる英語を増やしておき、それに目で見える文字・単語・文を合わせていくのである。(表1「平成20年度入門期指導内容」参照)

4技能のうち、作業に圧倒的に時間がかかるのは、書くことである。他の技能に増して、正確さやていねいさも求められる。1年生には、どのように書く指導を行うべきであろうか。以下に、順を追って1年生で行われる「書くこと」の指導について述べる。

#### (1) 文字の指導

まず、ていねいに書く指導である。小学1年生にひらがなの書き方を升目の大きなノートで教えるがごとく、アルファベット、特に小文字をていねいに書かせる。特に小文字、と書いたのは、その後に使う頻度が小文字に比べて圧倒的に多いからである。

この時期の書く指導で重要なことがいくつかある。一つは、太い罫のノートを使わせる

ことである。初めのノートはB5判で8段のものにする。手に入りにくければ、学校で一括購入して渡せばよい。

次に、ペンマンシップの使い方についての留意点がある。中学の入学前の春休みにペンマンシップを自習させるなどは論外であるが、そこまでひどくなくとも、ペンマンシップは「家でやってきなさい」という扱いになりがちである。しかし、生徒にいていねいに字形を見させようと思ったら、漫然と手本をなぞったりさせず、まず1, 2字書いた段階でじっくり手本と見比べさせる。「自分の字はお手本のようにきれいではない」そう気付いた時、はじめて美しい手本をなぞらせる。それでも手本なしでノートに書けば下手になる。そこでまたペンマンシップに戻る、このような使い方をしてはどうか。「家でやってきなさい」と指示して一気に書かせた方が簡単ではある。しかし、この時期にはぜひとも授業中に時間をとって小文字をていねいに、しかもある程度速く書けるようにしたいものである。

文字指導の発展編としては、ぜひ、1本線（基線）だけしかない所に書く練習もさせたい。なぜなら、教師は、自分で作成する定期テストの解答欄にいつまでも、4線を用意していないからである。1本線の解答欄にするならば、ぜひその前に授業で基線だけの上を書く指導をしておくべきである。また、それができたら、いつまでも4線のノートに書かせず、罫だけの大学ノートに1行おきに書く指導をしてはどうか。

## (2) 単語や文の正確な視写・リプロダクションの指導

小文字を書けるようになったら、単語を書くことができる。その前には、各文字が表わす音（フォニックス）の基礎も必ず押さえておく必要がある。単語の視写の仕方も非常に重要である。文字が表わす音を意識し、実際に声に出す。目に焼き付けるように何度か読み、書く時には単語を見ずに、発音しながら書く。そして、正しく書けたか見直す。これは、その後ずっと、単語のつづりの覚え方に直結する重要なスキルである。新指導要領には、「(4) 言語材料の取り扱い」の冒頭に「発音とつづりとを関連づけて指導すること」という項目が入っているが、それは、まさにこのような指導をさしていると考えられる。

口頭練習で文を言えるようになり、読めるようになったら、今度はそれを正確に書く段階となる。書く練習のほとんどは、どうしても家庭学習になる。従って、小学校時代に家庭学習の習慣がない生徒であっても、「中学の英語という教科は、どうしても家庭学習が不可欠だ」という意識づけをぜひさせたい。ここに成功するかどうかは、初学者段階の書くことの指導の成否を大きく分ける。

## (3) 文の生成の経験

授業時数が週4時間あれば、教科書の文を正確に書けることにとどまらず、自分で文を作る力も育てなくてはならない。時期としては、はじめは1年生の夏前くらいからなる。教科書の登場人物のプロフィールを真似て、自分について簡単に表現する活動が考えられる。まだ学習内容が少ないので、無理をさせず、モデル文の語句を入れ替えた程度でよい。

自分なりの文を作成させると、 \* I play swimming. のような誤りも多く生まれる。教科

書の文を覚えるだけの段階ではでてこないエラーの指導の機会とも言える。生徒のエラーや、文法上のつまづきを知るために文を書かせることは大変重要である。

単語を自信を持って読めること、書けること、に導くための単語レベルの継続指導は行っていくが、そうした単語レベルの継続指導の一方で、文法的な理解を確かなものにする指導にも時間をかけるべきであろう。

表1 平成20年度入門期指導内容

日付	口頭練習 (聞くこと・話すこと)		読むこと・書くこと				
	文型・文法	語彙 (含:発音指導)	文字 (一単語・一文)		教科書		
			読む	書く	読む	書く	
1	4/15	オリエンテーション1 挨拶 Yes.	Yes. Mr. Ms.	大文字の名前			
2	4/16	オリエンテーション2 家庭学習のやり方 Here.	数字1～5 Here you are. Thank you.	小文字の名前 ABCソング 基礎英語版			
3	4/17	テープレコーダの使い方 Present.	数字1～13 身近な物の名 (文 具など)	小文字の名前 ABCソング きらきら星版			
4	4/18		数字11～20 物の名いろいろ	ABCソング 以前の基礎英語版			
5	4/21	My/Your ～. Your/My ～? Yes/No		文字の音1:破裂音 アルファベットの話①			
6	4/22	My/Your ～? Yes/No	「私の部屋」	文字の音2:摩擦音 アルファベットの話②			
7	4/25	～'s his, her. 家庭学習の記録の書き方	電話番号	文字の音3:その他 の子音			
8	4/28	This is my ～. That is my ～.	足し算・引き算 歌: Seven Steps	文字の音4:短母音	ノート指導 大文字を書く		
9	4/30	his, her 復習 This is ～'s ～.		文字の音 母音の短 音・長音			
10	5/1	Is this your ～? Yes/No		サイレントeの働き			
11	5/7	ロングアンサーで答える	「顔や体の部分」	ABCソングをアブク で歌う	小文字を書く		
12	5/9	This is a/an ～.	日付・曜日				
13	5/12	Is this a/an ～? Yes/No	「リビング・台所 にあるもの」				
14	5/13	What is this? It is a/an ～.	動物	A～Zで始まる単語 のつづりを見る			
15	5/15	複数形			単語の写し方 単語を書く		
16	5/19	This is 名前. He/She is ～.	家族				
17	5/20	Is he/she ～? Yes/No	教室関係・教科名				
18	5/21	I am / You are ～. We are ～.	スポーツ their				
19	5/23	Are you ～?		学んできたことを文 字で見ると		基礎英語 を読む	
20	5/26	Who is this? Who is your math teacher? It is ～. He/She is ～.	they	文字が表わす音 2字の組み合わせ			
21	5/27	Who などの復習					
22	5/29	復習 実技テストの説明					
23	6/2	実技テスト Is that your ～?					
24	6/3	I like ～. I don't like ～. Do you like ～?	色				Starting Point
25	6/4	from					Lesson 1 本文を写す

#### 4. 中学2年生以降の「読むこと」を中心とした統合的活動

##### (1) 「読むこと」の指導事例

###### ① 「読むこと」の定義と指導方針

一般的に「読むこと」の活動には、書かれている内容を読み取ること、つまり理解すること、書かれている内容を音読したり適切に応じたりすること、つまり表現することの2つが含まれる。しかし、本校英語科では「読むこと」の活動は前者のみとし、後者は「話すこと」(場合によっては「書くこと」)の活動に分類している。したがって、本項では前者のみを「読むこと」の活動として取り上げる。また、「読むこと」の実際の活動では、ごく初期の段階には文字や符号を識別することがあり、次に単語レベルの意味を理解すること、続いて句や文レベルで意味を理解すること、そしてまとまりのある文章の概要や詳細な内容を理解することへと難易度が上がっていく。「読むこと」における最終的な指導目標がまとまりのある文章の内容を読み取ることであるのは、新学習指導要領の「ウ 読むこと」の(ウ)、(エ)、(オ)にも記されているが、本校英語科でもそれを生徒ができるだけ高いレベルで実行できるように指導している。そこで、以降の議論では「読むこと」の指導を、まとまりのある文章の内容を読み取る活動に限定して話を進めることにする。

ところで、本校では教科書本文の内容を扱う場合、ほとんどの課でオーラル・イントロダクションによる概要や詳細な内容の導入を行っている。その場合は生徒が教科書を開いて本文を読む段階ではある程度その内容が理解済みとなっており、たとえ生徒が初めてその文章を目にしたとしても厳密な意味では「読むこと」の活動になっていない。その意味で言うと、本文の内容の大部分をオーラルで導入できる1年生ではほとんど「読むこと」の活動はない。1年生の最終課以降は「読むこと」の活動を行わせたいと考える課(主に読み物教材として設定されている課)では読み取る活動を行っているが、それだけでは「読むこと」の指導が十分に行えないので、教科書以外の副読本を生徒に読ませるようにしている。ちなみに、本年度は以下の副読本を扱っている。

- ・1年学年末考査後～春季休業中…*Nine Stories about People*
- ・2年前期中間考査後～夏季休業中及び冬期休業中…*Introductory Steps to Understanding*
- ・2年学年末考査後～春季休業中…*Sherlock Holmes : The Blue Diamond*
- ・3年前期中間考査後～夏季休業中…*One-Way Ticket* (以上 OUP = Oxford University Press)
- ・3年教科書指導終了後…*Newsbreak Basic 2008* (桐原書店)

###### ② 指導の実際

###### ア) 教科書本文を扱う場合

該当するすべての課で行うわけではないが、以下に典型的な指導過程を示す。

###### 1) 「白文」読解(概要把握)

教科書本文を「読むこと」の教材として扱う場合、教科書をそのまま使うと不都合なことがある。その最たるものは未習語が時には日本語の意味付きで本文と同じページに列挙されていることである(現行の*One World*の該当ページには日本語の意味の表示はないが、巻末のWord Listには載っている)。それは、それをそのまま使うと、どうしても生徒が未習語句の意味を逐一確認しながら読むようになってしまい、読む

スピードが落ちることに加えて、未習語句の意味を類推しながら概要を読み取るという目的からはずれる活動をしてしまいがちだからである。そこで、未習語句を除いて教科書本文をそのままコピーした「白文」を最初に読ませるようにしている。

なお、読んだ後の活動として考えられる理解の確認は、教師が口頭により質問をしたり、ワークシートに書かれている質問に答えたりする方法を採ることが多い。

## 2) 「白文」読解 + 英問英答 (要点把握)

概要を読み取れたら、さらに細かい内容を理解させるために「白文」をもう一度読ませるようにしている。ただし、その場合は段落毎に要点を尋ねる英語の質問 (あるいは正誤判断をさせる英文) が印刷されている新たな「白文」を読ませる。生徒はそれらの質問に英語で答えることで理解を深めるのである。

なお、この活動では必要に応じて未習語句の意味を確認することもあるが、すべての語句の意味が確認できないと読み進められないという印象を生徒に与えないために、辞書の使用は禁止している。

*Let's read a story!* No. 369

**The Lotus Seed 第二読解(自力繰り返し読み)**

3年 目 ( ) \_\_\_\_\_

Step 2: 右の質問の答えにあたる部分を見つけ、本文に番号を付けた下線を引こう。

① The emperor was crying alone. He lost his throne that day. My grandmother wasted something to remember him by, so she took a lotus seed from his garden.

② She put the seed in a special place in her house. When she felt sad or lonely, she always took it out and thought of the young emperor.

③ After she grew up and got married, she still kept the seed for good luck, long life, and many children. When her husband went off to war, she raised her children alone.

④ One day bombs fell all around and soldiers came. She went and got the seed before anything else.

⑤ Her family got on a crowded boat and set out on a stormy sea. My grandmother held the seed in her hand and cried as she said goodbye to her country.

She came in a strange new country. It was a land of lights, cars, tall buildings, and a strange language.

⑥ She worked day and night for many years. Her children and her sisters and cousins worked hard, too. They lived together in one big house.

⑦ Last summer my little brother found the special seed. He asked many questions because he didn't know anything about lotus flowers or the emperor and his throne.

One night he stole the seed and planted it in some mud near his grandmother's vegetable garden. He wanted to see lotus flowers.

⑧ My grandmother cried and cried when she found out the seed was gone. She couldn't eat.

She couldn't sleep. My brother planted the seed somewhere and forgot where.

⑨ Then one day in spring my grandmother cried out. We all ran to the garden and saw a beautiful lotus flower.

⑩ "It has always been the flower of life and hope," she told us. "Even if the mud is very dirty and even if the seed is left for a long time, the flower will be beautiful. It is the flower of my country."

When the flower turned into a pod, she gave each of her grandchildren a seed to remember her by. She kept one for herself to remember the emperor by. I have put my seed in a secret place. Someday I will plant it and give the seeds to my own children. I will tell them about my grandmother and about Vietnam.

1. Why was the emperor crying that day?
2. Why did she take a lotus seed from his garden?
3. Where did she put the seed?
4. When did she take out the seed?
5. Did she have the seed when she got married?
6. Where did her husband go?
7. What did she have to do after he left?
8. Why did she have to run away?
9. Did she get the seed before she ran away?
10. Was the boat comfortable?
11. Why did she cry?
12. Where did they get? (Guess the name of the country.)
13. Did she work for many hours every day?
14. Who were living with her?
15. Did Thi Lien's little brother know about lotus flowers?
16. Where did he plant the seed after stealing it?
17. Why did he do that?
18. What did her grandmother do?
19. Could Thi Lien's brother find the seed?
20. Why did her grandmother cry out?
21. What is the lotus flower a symbol of?
22. Is it a strong flower?
23. What did her grandmother do when the flower turned into a pod?
24. Where did Thi Lien put her seed?
25. What is she going to do?

### 3年生 Reading: *The Lotus Seed* 用の「白文」+ 英問英答ワークシート

## 3) 教科書黙読

「白文」を読んで本文の内容をだいたい理解できたところで初めて実際の教科書本文に目を通させる。そのやり方はいろいろあり、単に黙読させたり、CDの判読に合わせて黙読させたり、課題を与えて黙読させたり等の方法がある。

なお、この段階では未習語句の意味の確認をさせたり、教師側から意味を尋ねたりすることが多い。

以降の活動については、教材の内容や個々の教師のやり方によって多様な扱いがあるので省略する。

## イ) 副読本を扱う場合

①に示した5冊の副読本のうち、最初の4冊はほぼ毎年使用するので、独自に作成したワークシートを使って読ませるようにしている。最後の1冊は年度毎に題材がすべて入れ替わるので、題材毎に扱いが異なる。そこで、ここでは独自のワークシートを使った指導過程を紹介する。ただし、1～2ページ程度の短い話が載っている最初の2冊とやや長めの物語が載っている次の2冊では扱いが異なるので、それぞれ別に示すことにする。

### 1) 短い話の指導過程

基本的な指導方針は教科書本文を扱う時と同じである。すなわち、まずは辞書を使わずに一読して概要をつかませ、次に再度読ませた後にワークシートの質問に答える形で理解を深めさせるという指導過程を採る。なお、ワークシートの質問は英語の場合と日本語の場合がある。また、ワークシートには未習語の意味を記録させるスペースや、読解後の活動として要約文の穴埋めをさせるという問題等がある。

Worksheet for Introductory Steps to Understanding No.240

**Guided Reading of Story ①**

Task 1: 辞書を使わずに物語を一度さっと読んで内容を理解しよう。(2分以内)  
→その後に、意味のわからない単語には下線を引こう。

Task 2: 物語をもう一度読んで、次の質問に答えなさい。

① この話は Mr. Jones がどこにいるときのことですか?

② その場所にいるときに Mr. Jones がよくしたことは何ですか?

③ そこで Mr. Jones に起こったこととは何ですか?

④ その時、Mr. Jones は何をしましたか?

⑤ Mr. Jones がその行動をとった理由(彼の考え)は何ですか?

Task 3: テキストの副題A～Cに答えなさい。

Task 4: 次の文章は第1話の内容をまとめたものです。空所に適切な語を入れない。

Mr. Jones was going to go to the ①( ) by ②( ). He had a small ③( ) and a beautiful ④( ). He put his ⑤( ) out of the window and the ⑥( ) pulled his hat off.

Then Mr. Jones threw his ⑦( ) out of the window because it had a ⑧( ) and an ⑨( ) on it. He thought it would bring back the ⑩( ), too.

2年生 *Introductory Steps to Understanding* 用ワークシート

No. 371

**The Girl with Green Eyes 1**  
(p.1 ~ p.4 1,2)

3年 級 ( )

1 p.1の7行目までどんな登場人物が出てきますか。また、ここまでの間に、その登場人物についてわかったことを書きなさい。

く 注意すべき表現: \* ( )内の数字は「～行目」  
Julie didn't answer and looked bored. (3)  
He told a long, boring story about his wife ... (12)

2 p.1 下から5行目 It was a hot day and the train was slow. は、この話がどんな話になりそうなる雰囲気を与えていますか。

3 p.1 下から6行目から始まる段落を読んで、この事象に集まっている人物をすべて書きなさい。

4 p.1 下から2行目 ~ p.3の7行目までを読んで、次の登場人物についてわかったこと(性別・性格等)を日本語で簡単に答えなさい。

(1) Julie:  
(2) The man in the brown hat

く 注意すべき表現:  
They wanted to be noisy and run up and down the train. (9)  
She took an escape exit of her bag ... (17)

5 p.3 下から5行目から始まる段落を読んで、Julie が Dad に対してどんな気持ちを持っているか答えなさい。

3年生 *One-Way Ticket* 用ワークシート

### 2) 長い物語の指導過程

本校で扱っているやや長めの物語の全内容を単位時間で理解させるのは難しいので、大抵の場合は物語を章や場面毎に区切ったワークシートに沿って読ませるようにしている。もちろん、第一読解として全文を読ませることもできなくはないが、現行の2冊は内容が推理小説(*The Blue Diamond*)であったり、サスペンス調の物語(*One-Way Ticket*)であったりするので、結末は秘密のままじっくりと読み進める方法を採用している。

具体的には、まず該当箇所を読んでその部分の概要を理解し、続いてワークシートの質問に答える形で理解を深めさせるという指導過程を採っている。なお、やや長め



の内容を数時間を使って読み取るので、各部分の内容をしっかりと読み取らせたいということ、以前に読んだ内容をしっかりと脳裏に焼き付けさせておきたいということから、ワークシートの質問は日本語で書かれている。また、重要な表現についてはあらかじめワークシートに印刷して指導漏れがないようにしている。授業中に読み切れなかった分については長期休業中の自習課題としている。

## (2) 読み物教材を題材にした統合的な活動

新しく改訂される学習指導要領は、4技能を総合的に育成し、統合的に活用することを目指しているが、週4時間の授業時間内でどのような統合的タスクが設定できるだろうか。ここでは現行の教科書のレッスン間、あるいは巻末に載っている読み物教材を用いて、読解を中心としつつ、他の技能にもからんでゆく統合的タスクがどのように設定できるか、考察してみたい。

ここでの留意点は、一文一文を和訳させるだけで読解終了とするのではなく、生徒が「聞くこと」「話すこと」「書くこと」を含めた活動に取り組む過程で、本文に何度も目を通し、様々な種類の読みを自然な形で経験できるようなタスクを工夫する必要があるということだ。最近では高校を中心に、和訳を先渡しする実践もいくつか見られるが（金谷他、2004）、その場合も和訳を見ること自体が目的ではなく、和訳を補助としつつ最終的には英語本文を読まねば達成できないようなタスクである必要があるだろう。

以下に挙げる各タスクの（ ）内の文字は関連する4技能を示している。

(R: 読むこと, L: 聞くこと, S: 話すこと, W: 書くこと)

### ① 読解を中心としたタスク

ア) 全体をさっと黙読し、テーマやメッセージを考えて日本語で書かせる (R)

この際、生徒はわからない語句や箇所があっても、とにかく先に読み進み、この時点での理解で主題やメッセージだと思うことを書き残す。クラスメートと書いたものをシェアしたり、本文の理解が深まった後でもう一度同じ活動を行うと、人と、あるいは過去の自分との解釈の違いを楽しむことができる。理解の補助として教科書CDを聞かせてもよい。この活動のためには、普段の授業で教科書を黙読し、理解する活動に生徒が慣れている必要がある。

イ) 本文の理解に関しての英語の質問をいくつか印刷したワークシートを配り、各問いの答えになっている部分に下線を引きながら全体を読ませる (R)

全体の流れを理解するのに不可欠だと思われる文が答えになるように質問を設定しておく。教師用マニュアルに載っているQAも参考になる。問題を解き終わり、下線を引いた部分をつなげてゆくと、全体のサマリーになるような質問設定が理想である。

ウ) セクションごとにタイトルをつけながら(セクションを分けながら)読ませる (R)

ここでは生徒は単文レベルより深い読みを要求される。いくつかのセクションに分けて本文を提示している場合は、それぞれの部分にタイトルをつけさせる。セクションに分ける作業自体を生徒にさせてもよい。その場合は生徒によって区切る部分が変わってくるので、ここでも解釈の違いを互いに楽しませることができ。タイトルをつけさせ

ることが難しい場合は、教師がタイトルを選択肢として挙げておき、当てはまるものを生徒に選ばせると難易度を下げることができる。タイトルを英語にするか日本語にするかでも難易度の調節ができる。

エ) 単語・熟語の意味だけを印刷したワークシートを配り、該当する英語を確認しながら読ませる (R)

単語・熟語の意味を確認しながら読むことで、生徒は各文をより深く理解し、曖昧に理解していた部分を確認できる。複雑な文があれば、ここで説明を行うことで、語彙の確認と併せて理解を深めることができる。

## ② 他技能を含めた統合的タスク

ア) 内容確認の正誤聴き取り問題を作らせ、互いに出題、解答させる (R, L, S, W)

はじめのうちは、教師用マニュアルに載っている正誤問題などを参考に教師が出題し、慣れてきたら生徒たちに自分で問題を作らせる。問題を作るために生徒は本文に何度も目を通すことになるし、相手に出題された問題に正しく答えるためにも本文をきちんと理解していなくてはならない。問題作成時に、生徒は読んだことをもとに文を作り(書くこと)、出題時には問題を出す生徒は声を出し(話すこと)、答える生徒は聴き取りに集中する(聞くこと)。

イ) 主人公の気持ちが表れていると思う文に下線を引きながら読ませる (R, S)

これは生徒それぞれの解釈の違いを最も楽しめる活動である。選んだ部分だけでなく、なぜそこを選んだのかも言わせると、国語の授業のような意見のやりとりが生まれる。生徒はまず「…は悲しかった」「…は…と思った」のような部分を選ぶことが多いが、中には例えば「亡くなったとき、父はまだ43歳だった」のように一見気持ちが表れているようには見えない文を選ぶ生徒も出てくる。理由を尋ねると「『まだ (only)』という語に、早すぎた父の死を悲しむ気持ちを感じた」との答えにクラス中が感銘を受けたが、このような深い読みと意見のやりとりは、英文をただ和訳しているだけでは生まれてこなかっただろう。下線を引かせる部分は気持ちに限らずどんな設定でもよいが、工夫次第で、文の意味を理解するだけではない読みのおもしろさをわからせることができる。学年が上がれば、選んだ理由を英語で表現させてもよい。

ウ) モデルの音声を聞き、自分の理解を加えて音読させる (R, L, S)

自分の解釈を音読で表現する。まずは教科書CDを聞き、自分の解釈と照らし合わせて、そのまま参考にして音読できるところ、あるいは自分なりのアレンジを加えて音読するところを考えて練習する。音読発表会など(本校ではReading Showと題して定期的に行っている)友人と互いの音読を聞き合うチャンスを作れば、良い意欲づけになり、お互いの音読から学び合うこともできる。

エ) 話の続きを考えて書き、互いの作品を読ませる (R, S, L, W)

その後どうなったかをオリジナルときちんとつながった話にするためには、オリジナルもきちんと読めていなくてはならない。生徒はお互いが書いた続きを読み合うことで、使える既習事項のバリエーションにも数多く触れることができる。また、同じ題材をもとにしても人によって発想が多様に異なることを学ぶこともできる。続きを読んだ感想を英語で言ったり書いたりさせれば、さらに幅の広い、内容の濃いタスクになる。

## 5. 「聞くこと」「話すこと」「書くこと」を統合的に使用した言語活動

### (1) 「クイズショー」"What Am I?"

#### ① ねらい

従来の授業過程に発信型の言語活動を「帯プログラム」として取り入れることにより、英語で問答する機会を与え、楽しみながら既習事項の定着を図ると共に、予想外の状況にも柔軟に対応できる方策能力を育成する。

「早く正解を言い当てるのが目的ではなく、答えは分かっている、答えを確認するために質問し続ける」ことで発話時間を確保し、生徒にプログラムを運営させることにより、より積極的に話そうとする態度を育成する。

段階を追った指導の中で、全員が級友の前で、自分の伝えたいことを堂々と発表できる力を育成し、以降の発表活動の基礎を養う。

#### ② 概要

本校では第1学年後期に、毎時間授業の始めに実施している。2名の生徒が、「私は何でしょう」というクイズを出し、残りの生徒は6名程度の班に分かれ、グループ対抗で出題者に質問しながら答えを探っていく。1人の発表者の活動時間を3分とし、その中で段階的に答えに導くように組み立てられた3つのヒントが示される。活動全体でおおよそ8～10分かかる。

聞いている生徒が質問するたびに質問者の所属する班に得点が与えられる。班ごとに質問得点を累計し、席替え又は全員が出題し終えたところで優勝グループを決める。

#### ③ 留意点

事前指導の時点から、十分に時間をとって、学級全体→班活動→個人作業と段階を追って指導することにより、全員が自信をもって発表できるように配慮する。また、発表者2人を「よりよい発問と楽しい雰囲気を出すための今日の出題者チーム」と位置づける。この「出題者チーム」ごとに事前指導を行い、本番では予備を含めた8つ程度のヒントと級友からの質問を予想した想定問答集を書いたワークシートを持たせる。教員の前で事前に練習してから本番に臨ませることにより、心理的負担の軽減を図る。

教師はこの時点で既習事項をできるだけ多く活用させるように導く。ただし、知らないことばを辞書で調べず、既習事項を駆使し、聞き手の立場に立った易しい表現で発問させることにより、質問応答活動のより一層の活発化を図る。従って使用可能な語彙や文法事項は、教科書とNHK基礎英語の既習事項とする。

発表当日は、出題者紹介や問答活動はBGMで時間を区切り、メリハリのある雰囲気をつくる。生徒は自分の発表とQA活動を録音したテープを持ち帰り、家庭でテープを聞いて級友の質問と自分の対応を書き取り、よくできた点や自らの過ちに気づく機会とする。この課題は、よりよい表現を考えたり、よりよい発音への関心を高めるチャンスを提供することにもなる。

#### ④ 成果と課題

かつては正解を当てるのがゴールだったが、「答えが分かっても、最後の第3ヒントが出るまでは、様々な角度から、答えを確認するための質問をする」というルール変更を行ったため、より多くの生徒に質問する機会を提供できるようになった。発話数が増加

し、生徒の満足度も高まったため、2巡目の発表を希望する生徒が多くなり、向上心の高まりも見られた。また、出題者2人をチームとして運営に参加させることにより、発表生徒を「授業を創る側」に引き込むことができ、達成感を高めることができた。

今後は既習事項を繰り返し使った質問の量を増やすだけでなく、質疑の流れに沿った質問ができるように指導していきたい。

## (2) 「50分間で全員が作り発表するスキット・ショー」

### ① ねらい

スキット作りは、今までに学習した英語を主体的に使い、既習事項の復習・定着をはかることをねらいとしている。じっくりと取り組むスキットも必要だが、短時間(15分程度)でもっと簡単に手間をかけず、気楽に既習事項(文法事項や場面にあった表現など)を文脈の中で使いながら身につけさせたい。

### ② 概要

- ア) 条件課題の達成に向けたレディネス形成のために復習を行う。
- イ) 「本日の条件課題」を含んだスキットを提示する。事前に録画しておいてもよいが、授業前に英語係やALTと簡単な打ち合わせをして実演することもできる。
- ウ) ペアで創作し、時間を区切って立ち稽古させる。
- エ) 立ち稽古の成果をペア同士で発表会で確認し、さらに工夫できる点やわかりにくい点を指摘し合う。
- オ) 全体発表会を行う。
- カ) 教師によるまとめと家庭学習課題の提示を行う。

### ③ 作品例

以下に2年生が比較を学習したあとに、比較級・最上級を使って作成したスキット(原文)を示す。生徒が考えた設定は、「泥棒が盗みに入る家を物色している場面で、大きくて立派な家を見つけ侵入する」というものだ。短時間でも立派にオチのついた作品に仕上がっている。

#### We Are \*Stealers (注:Thieves)

- A: Look. This house looks rich.  
B: No, no. That house looks richer than this one.  
A: OK. Let's go into that one.  
B: Roger.  
(Two minutes and forty seconds went by.)  
B: There are a lot of small rooms.  
A: Maybe this house is the richest in the town.  
B: (床を見て) Look. We can read these letters. This is...  
A: P... B: O... A: L... B: I... A: C... B: E...  
A & B: POLICE!  
B: We are in the police!  
A: Oh, my God!

#### ④ 留意点

オリジナル・スキットとは言っても、何でもいから書いてごらんでは、生徒も書きようがない。場面や登場人物の設定をするなり、その日に使用しなければならない慣用表現や単語・文法項目を指定するなど、ある程度条件を与えた方が生徒には取り組みやすいようだ。もちろん慣れてきたら、状況設定・登場人物も生徒に自由に創作させる。

オリジナル・スキットには、生徒の興味・関心、その時点で使用可能な英語、創造力・遊び心などが反映される。また、慣れてしまえば教師が考えるほど負担ではないようだ。教科書の対話文を少し変えさせるだけで、世界にただ一つのスキットが1年生でも十分に楽しめる。その喜びは大きい。

表題に「50分間で」とあるが、無理して1時間で終わらせる必要はない。しかし、生徒は自分の考えやイメージを短い準備時間で既習事項を駆使しながら表現することが苦手であるという現状がある。読む・書く・聞く・話す技能に演じる要素も加えたスキット作りと発表を「気軽に、気楽に、気長に」繰り返して継続指導し、徐々に生徒を鍛えることが必要だ。そのためには気楽に取り組める50分間のスキットショーがお薦めだ。

What Am I?と同様に、自分たちの発表を振り返る時に生徒は成長する。そのためには自分たちの発表をテープに録音させて家庭で聞かせ書き起こす作業は大きな意味を持つ。上手くできたところ、改善できるところに気づくことが大切だ。このような振り返り作業を行ったあとに、他クラスのベストスキットをビデオで鑑賞できれば生徒の目標はさらに高まる。

#### ⑤ 成果と課題

このような創造的で自由度の高い課題では、「正解」が一つとは限らず、総合的な運用力が必要とされる。そこで生徒は、既習事項を含めた「今までに学んだ英語」を総動員して課題解決にあたらなければならない、知識理解の総合的な復習と発表の仕方を身につけることができる。

一方で単語や文の誤りにどのように気づかせるかが、ここでも大きな課題となっている。

### (3) ディベートへの第一歩「3分間ライティング」

#### ① ねらい

中学生は、友人、部活、勉強、進路など、一人一人が様々な悩みを抱えている。もちろんトラブルもある。「他人の立場からものを考えたことがあるのか」と叱る代わりに、実際に他人の立場に立ち、論理的に考える体験をさせることができるのがディベートの特徴であろう。既習事項を使うことを通して身につけさせる点は前述の活動と同様である。

#### ② 概要

ここでは実際のディベート活動に至る手前の3分間ライティングについて述べる。まず、生徒たちには事前に母語でのディベートを体験させておく。本格的なディベートへの橋渡しとして、個人的な考えと関係なく、指定された立場から論題に対して賛成・反対の意見を構築し、続いて相手の意見に反駁させる。

- ア) 教師が論題を与える。
- イ) 2ペアを一組とし、それぞれ肯定側、又は否定側からの立論を書かせる。
- ウ) ペア同士、相互に意見発表する。
- エ) 発表された相手の意見に対して反駁を書く。

### ③ 具体例

以下に Japan is a good country. を論題として生徒が書いた文章（原文）を提示する。

<賛成意見>

I have three reasons. First, in Japan there is almost no gun. So we are very safe.

Second, we can drink water all time. It is very important to live.

Third, Japan has a great many elderly people. It means in this country we can live longer.

<反対意見>

First, some people smoke everywhere, so they make us sad.

Second, Japan is a very small country, but a great many people live here.

Third, Japanese people have shorter legs than foreign people. Japanese don't look cool.

### ④ 留意点

新指導要領の「指導計画の作成と内容の取り扱い」には、道徳の時間などとの関連が述べられている。これに関して英語科教員が授業できることの一つがディベートであると考えられる。ディベートへ至る諸活動を通して、生徒が今まで考えてもみなかった立場から、論理的に筋道を立てて思考する機会を与え、級友の発表に学び、自分の感じ方・考え方を再点検させることができる。

ただし、ディベートでは準備が整っていないと母語でも意見を構築したり反駁できないことがある。従って、まずは母語で他人の立場に立つ練習をし、意見をまとめられるようにすることが必要だ。また、英語で行うときにも、始めはペアやグループで活動させると、生徒の負担は相当軽減されるうえ、互いの学び合いも生まれる。形式の整ったディベートを1回実施するより、この3分間ライティングを何回も行う方が遙かに力が付くだろう。例えば、同じ論題を次の日には逆の立場から書くと、思考が鍛えられるだけでなく、前日相手が使った表現を借用したり発展させることができるようになる。

### ⑤ 成果と課題

生徒の気持ちを引き出す論題選びが肝要だ。"Why Should We Study English?" という課と関連づけて、「英語は学ぶべき唯一の外国語である」や「小学校から英語を学ぶべきである」を論題としたディベートを行った。他にも「男女混合名簿を使用すべきである」「弁当ではなく給食を実施すべきである」など様々な論題で生徒に考え英語を使わせる機会を提供できた。

指導の課題としては、論題に対する理解を深めるために背景知識や問題点を事前に理解させておく必要があるにも関わらず、時間短縮を目指した場合にはどうしても説明不足になる。しかし、スキット作りと同様に、準備時間は可能な限り短く設定し、即興的なスピーチに展開させる可能性も探りたい。

## 6. 成果と課題

本校では、すでに新学習指導要領に示された授業時数に近い時間数（4 - 3.5 - 3.5）で授業を行っていることもあり、今回の研究発表では週3時間から増える +1 時間の使い道として考えられる指導内容を実際に指導している（あるいは過去に指導したことのある）実践の中から紹介した。では、それらを含めて学習指導全般が新学習指導要領の完全実施に伴ってどのように変化することが予想されるのかというと、「1. はじめに」でも記したように、指導方針の基本的な柱の部分は変更する必要がないものと考えている。ただし、新指導要領に示されている内容をすべて満たした指導を行うとなれば、枝葉の部分の微調整は必要であることは言うまでもない。

一方、小学校の「外国語学習」を受けて入門期指導の内容はどのように再編成したらいいのかという点についても、軸になる部分は変更する必要はないと考えている。それは、本校の入門期指導にはすでに中学校入学以前に英語学習の経験のある生徒を受け入れてもぶれないだけの系統的な指導計画及びその指導実践があるからである。もちろん、入学してきた生徒の実態に合った微調整は必要であろうが、それを今からきちんとした形に表すのは大変な作業であり、たとえできたとしても、それにどれほどの意味があるのかと考えている。それは、「外国語活動」が実施される最初の数年間は小学校でも手探りの指導が行われることが予想され、確固たる指導方法及び指導内容が確立するまではさらに数年かかるであろうと予想されるからである。そのような指導を受けてきた新入生の実態は、場合によっては年ごとに大きく変わることも考えられる。したがって、当分の間は中学校としてもその様子を見極めながら臨機応変な対応をしていくことが求められるであろう。

また、具体的な言語活動については、置き換え練習、ドリル練習のような自由度の低い練習と、「使える感」を刺激する自由作文のような自由度の高い活動の両方をバランスよく、しかも細かいステップを踏んで行うことがのぞましい。しかし、ともすれば、単純なドリルの後にすぐに自由な作文を書かせるなど、中間段階の活動が薄くなるきらいがあるようにも思われる。今後は、この自由度が中程度の読み書き能力育成活動を多く開発していきたい。

### <参考文献>

金谷憲・高知県高校授業研究プロジェクトチーム．(2004)．『高校英語教育を変える和訳先渡し授業の試み』三省堂．